

河川敷野草の活用取組について

(社)岡山県畜産協会経営指導部

1 はじめに

岡山県畜産課及び社団法人岡山県畜産協会においては平成21年度から「河川敷を活用！低コスト自給飼料確保対策事業」により、県下の河川敷及び堤防上野草の活用に取り組んでいます。県下には旭川、高梁川、及び吉井川の三大河川が南北に流れ、その河川敷及び堤防上には多くの野草が繁茂し、灌木類も生育しており、緑の景観を形成しています。しかし、河川の防災上からは、これら野草等の必要以上の生育は流水に支障を来すため、国土交通省河川事務所では、毎年2回多額の経費と手間をかけて刈取り、大部分は焼却処分しているのが現状です。

一方、畜産農家では近年の購入飼料の高騰に経営を大きく圧迫されており、安価で安全な飼料の確保が課題となっていました。こうした背景により、今年度から県畜産課を始め県民局等関係機関と岡山県畜産協会との連携による河川敷の野草の活用事業がスタートしました。



旭川河川敷の梱包ロール

2 活用へのステップ

県下の河川を管理する国土交通省の理解と協力を得て、関係機関との事業打合せ会議、希望畜産農家との意見交換会、河川敷現地におけるロール作業検討会などを開催し、活用への具体的な取組について検討し、農家への提供と給与実証を行うことなどを決定しました。

3 野草の給与実証

今年度の野草提供は天候や刈取りのタイミングにより旭川、高梁川の一部に限られたため、提供農家も一部の方に限られました。6月から天候をみながら河川事務所との連絡を取る中で、延べ13農家へ約29トンの野草を提供し、給与実証をお願いしました。

実証の結果は次のとおりです。

- ・家畜に給与した結果、嗜好性も良かった。
- ・野草利用の評判も良く、今後も利用したいとの声が多かった。但し、品質が天候に著しく左右されるところから、低品質の野草給与は不安を感じられている。
- ・配布方法は運搬、利用の点から小型ロールでの提供が強く望まれている。
- ・異物の混入、品質の不安定なところから、当面和牛農家への給与に限られるものと思われる。

4 供給体制の検討

ロールでの提供を望む声が多いところから、高梁川の総社市河川敷、及び旭川の

岡山畜産便り 2010.02

岡山市浜の河川敷において、それぞれ大型ロールベラー、小型ロールベラーを使用した梱包実証を行いました。

実証の結果、河川敷の形状が良好な場合、草地と遜色ない効率的なロール製造が可能であり、天候に恵まれた時は極めて良質のロールが得られました。

また、小型ロールはベールに時間を要するものの、和牛繁殖農家における運搬、給与の点からも好評でした。

5 今後の進め方

今後さらに河川敷野草の有効な活用が図られるよう次のような取組を進めてい

きます。

- ・県下河川敷地の野草刈取り時期、植生のマップの作成。
- ・刈取り野草の効率的供給体制の整備のための作業体制整備、ストックポイントの設置、情報発信の方法などの検討
- ・家畜の給与に適しない低品質野草の堆肥利用など有効利用の検討
- ・野草への異物混入低減対策の検討（機械除去、河川敷利用一般の方へのPRなど）



刈取り中のラジコン刈取機



集積地で積み込み中の野草



農家での給与状況



農家にストックされた梱包野草